

目呂二をめぐる人々

●絵はがきとなった上野飛鳥山での花見のドンチャン騒ぎ

〈東京美術学校界限〉

高村豊周
1890●1972
彫金家
学生時代に高村家を訪問するなどの交流があった。

北村西望
1884●1987
彫刻家
美校卒業後、目呂二にヴァイオリンを教わる。

東郷青児
1897●1978
洋画家
盛り場に集う美校仲間。互いに似顔絵を描き合う。

大佛次郎
1897●1973
小説家
目呂二の猫あなかを愛用。現在も横浜大佛記念館に三体所蔵されている。

岡本文弥
1895●1996
新内節太夫 随筆家
奇席を通じて交流。自著に目呂二のスケッチを採用した。

尾崎放哉
1885●1926
俳人
荻原井泉水門下の兄弟子。井泉水の会で交流。

杉山長谷夫
1889●1952
作曲家
ヴァイオリニスト
息気投合し、目呂二の形をテーマに作曲した。

柳 兼子
1892●1984
声楽家
柳宗悦の妻

野口雨情
1882●1945
詩人
童謡民謡作家

北原白秋
1885●1942
歌人 詩人
童謡作家

中山晋平
1887●1952
作曲家

岡本一平
1886●1948
画家 漫画家
夫婦同士で銀座・天金の夫婦愛を愛しむ。

朝倉文夫
1886●1964
彫刻家
後年アカデミックな權威に反目する。

石井鶴三
1887●1973
洋画家 彫刻家
美校の同期生。目呂二没後に発行された目呂二の著書を執筆。

会津八一
1881●1956
歌人 書家
会津の句と俳句に感服し、料理熊太の仲介により交流した。

料治熊太
1899●1982
美術評論家
編集者 版画家
目呂二の人物に心酔し、随筆や挿画を依頼する。

荻原井泉水
1884●1976
俳人 俳論家
自由律俳句を提唱。戦後、荻原の木通庵をたびたび訪れる。

高藤素蔵
1889●1974
彫刻家
構造社の遺稿刊行に目呂二のスケッチを参考にしている。

陽威二
1898●1935
彫刻家
我楽他宗や自転車など幅広い趣味をともに楽しんだ。

中野五一
1897●1978
彫刻家
戦後、都内のブロンズ工房を営み、目呂二の創作を支える。

安永良徳
1902●1970
彫刻家
彫刻仲間とともに、その出征を見送る。戦後シベリア抑留から生還。

神津港人
1889●1978
洋画家
ともに満州を歩いて風景画を描く。

岡本かの子
1889●1939
小説家 歌人
夫婦

三坂歌一郎
1908●1995
彫刻家
昭和初期まで目呂二に師事した最後の弟子。

川崎ブツペ
1905●1978
人形作家
当時池袋にあった目呂二のアトリエに入り浸る。

棟方志功
1903●1975
版画家
自転車イベントに参加。酔って目呂二の顔に落書きしたエピソードも。

河村目呂二
1886●1959
彫刻家にして人形作家
画家にして漫画家
広告デザイナー&コピーライター
伝説の猫マニアにして日本初の招き猫コレクター

三田平凡寺
1896●1960
建築家
我楽他宗の山本。その個性に心酔し、家相や書道の制作を依頼。招き猫の師に仰ぐ。

有坂与太郎
1896●1955
郷土玩具研究者
狐のものの蒐集家。自らの郷土玩具展への参加を目呂二に依頼。

吉田永光
1877●1957
人形作家
百貨店での人形展でも目呂二に出会った。

淡島寒月
1899●1926
作家 古物蒐集家
初めて自宅を訪れた際、その生きた目呂二の面々と邂逅する。

川崎巨泉
1877●1942
郷土玩具作家 人魚洞
郷土玩具を通じて交流。目呂二のおもちゃ絵巻にマナーキーを贈る。

〈同業の友人たち〉

宮尾しげを
1902●1982
漫画家
江戸風俗研究家
岡本一平からつながりで交流する。

深沢紅子
1903●1993
洋画家
すの子女子美術学校の同窓生。戦後の戦況でも交流が続いた。

深沢省三
1899●1992
洋画家 童画家
ジャズマニアの演奏会でともに遊ぶ。

武井武雄
1894●1983
童画家 版画家
若手作家を引き連れ、昭和モダンの風をなかに自転車で走り抜けた。

初山滋
1897●1973
童画家 版画家
ジャズマニアの演奏会でともに遊ぶ。

河野通勢
1895●1990
画家 版画家
自転車の輪で意気投合。ともに主情派美術に参加。

木子七郎
1884●1955
建築家
我楽他宗では目呂二を招き猫の師に仰ぐ。

松平康庄
1867●1900
旧藩井澤十八代当主
木魚蒐集家
目呂二夫妻の創作と通ずる積極的な交流。

鎮目桃泉
1877●1938
芝居製作所の技術者
東京・東横線車道を模倣する目呂二の活動に応援。

吉田永光
1877●1957
人形作家
百貨店での人形展でも目呂二に出会った。

戸田海笛
1887●1931
彫刻家 日本画家
大正期の盛り場でも目呂二のスケッチが多く残されている。

落谷虹児
1898●1979
挿画家 詩人
アニメーション作家
すの子女子美術学校の同窓生。戦後の戦況でも交流が続いた。

丸山晚霞
1867●1942
画家
目呂二の猫白猫の賛助者に名を連ねている。

田部重治
1884●1942
英文学者 登山家
目呂二に別荘仲介を依頼。信濃川分での夏の遊をともに楽しむ。

堀辰雄
1904●1953
小説家
疎開先の信濃川分油屋旅館でのお隣さん。

東郷彰
1885●1969
東郷平八郎長男
貴族院議員
目呂二の蒐集家。目呂二に特約の制作を依頼し、しばしば交流した。

高藤昌三
1889●1961
古蹟研究者・蒐集家
我楽他宗を継いだ後、目呂二と交流した。

水谷八重子
1905●1979
新劇 新派女優
黒澤明の初監督作に出演。目呂二の制作を依頼する。

寒川鼠骨
1875●1954
俳人 正岡子規門下
鼠骨の目呂二一家の風情を、目呂二の活動を支える。

坊野寿山
1880●1988
川柳家
高藤昌三とともに、戦後の目呂二の活動を支える。

細木原青起
1885●1958
漫画家
主情派美術の仲間。目呂二の多くの書簡が残されている。

田中比佐良
1890●1974
漫画家
細木原とともに東海道を飛車道を活躍する。

堀多恵子
1913●2010
随筆家
疎開先で目呂二と交流。戦後も信濃川分の近所として交流を続けた。

加藤泰三
1911●1944
彫刻家 登山家
戦後から目呂二の支援。ソノハタの手紙を送る。中国東北に戦死。

河村すの子
1900●1992
人形作家
大正期の代表として、たびたび新聞や雑誌に掲載された。

平尾賛平
1874●1943
化粧品社長
目呂二を雇いながら、そのマルチな活動を支える。

亀高文子
1886●1977
洋画家
退隠後に神戸に移った後も、時々目呂二の制作を依頼する。

水谷八重子
1905●1979
新劇 新派女優
黒澤明の初監督作に出演。目呂二の制作を依頼する。

寒川鼠骨
1875●1954
俳人 正岡子規門下
鼠骨の目呂二一家の風情を、目呂二の活動を支える。

坊野寿山
1880●1988
川柳家
高藤昌三とともに、戦後の目呂二の活動を支える。

細木原青起
1885●1958
漫画家
主情派美術の仲間。目呂二の多くの書簡が残されている。

田中比佐良
1890●1974
漫画家
細木原とともに東海道を飛車道を活躍する。

堀多恵子
1913●2010
随筆家
疎開先で目呂二と交流。戦後も信濃川分の近所として交流を続けた。

加藤泰三
1911●1944
彫刻家 登山家
戦後から目呂二の支援。ソノハタの手紙を送る。中国東北に戦死。

〈レイト化粧品界限〉

河村すの子
1900●1992
人形作家
大正期の代表として、たびたび新聞や雑誌に掲載された。

平尾賛平
1874●1943
化粧品社長
目呂二を雇いながら、そのマルチな活動を支える。

亀高文子
1886●1977
洋画家
退隠後に神戸に移った後も、時々目呂二の制作を依頼する。

水谷八重子
1905●1979
新劇 新派女優
黒澤明の初監督作に出演。目呂二の制作を依頼する。

寒川鼠骨
1875●1954
俳人 正岡子規門下
鼠骨の目呂二一家の風情を、目呂二の活動を支える。

●レイト化粧品重役たちと

河村目呂二の
相思相愛相関図



●レイト化粧品重役たちと



●ジャズ・マニア献灯式、棟方志功ら参加



●武井武雄らと



●ジャズ



●淡島寒月、我楽他宗の面々と



●レイト化粧品重役たちと